

ローザ・ヤン氏 経歴
電力研究所 (EPRI) フェロー



Rosa Yang 博士は、産業界の主要問題を解決するため米国と海外の電力会社、メーカー及び規制機関の支援と協力活動に携わってきたという、誰しもが認める経歴を持っている原子力産業界のリーダーである。電力研究所 (EPRI) のフェローである Yang 博士は、EPRI とアジアの電力会社及び関連組織との関わりの主導役を担っている。同博士の任務は、全世界の原子力発電所の安全性と性能を高めるためにアジアとの関係を促進し、その独自能力を最大限に発揮する共同研究プログラムを策定することである。

Yang 博士の EPRI での初期の貢献は、ますます要求の増える運転条件下で運転サイクルの延長及び核燃料の信頼性向上につながる研究活動にあった。同博士の原子力産業への最も重要な貢献は、10 カ国以上が積極的に参加する“燃料信頼性プログラム”の創設であった。このプログラムは、核燃料の信頼性に影響を及ぼす産業界の複数の重要な問題を解決することに成功した。さらに、このプログラムは、海外の電力会社及び規制機関も参加して、ホットセルにおける冷却材喪失事故 (LOCA) に関するその種で初めての試験を実施した。これらの試験結果は、現在の LOCA 基準の技術的根拠になっている。

材料・化学本部長として、Yang 博士は広範囲の研究を指導し、沸騰水型及び加圧水型軽水炉の材料の経年変化及び劣化、水化学管理、燃料信頼性、使用済燃料貯蔵、核廃棄物処分、及び放射線管理に対する科学的理解を高めた。

テクノロジー・イノベーション部門担当の副社長として、Yang 博士は炭素回収、エネルギー貯蔵、再生可能エネルギー、センサー、ナノテクノロジー、及び先進的材料など、ハイリターン戦略的分野に資源を配分し直した。同博士は積極的にイノベーションを推進し、電力産業において形勢を一変させる技術進歩の追求を目指すブレークスルー・プログラムを開始した。例えば、送電線の検査に革命をもたらすロボット工学の使用、放射線を大幅に低減し原子力発電所の停止期間を短縮する新しい改良型樹脂などである。

Yang 博士は EPRI 入所以前、ゼネラル・エレクトリック社に勤務し、同社の燃料設計と許認可コードを開発、複数の国際的な燃料試験プログラムにつながった。

Yang 博士は、カリフォルニア大学バークレー校で原子力工学の修士号と博士号を取得、また台湾の国立清華大学の理学士号を保有している。